

陰の世界の心と体の動きに浸り、その後、陽の世界を見つめ振り返る。これが太極拳の本質の一つである。

風に吹かれてそよぐ木の葉は一見同じように動いているように見える。しかし、よく見ると皆違う動きをしている。

太極拳もそれでいいのである。人の体型は皆違うし、太極拳をする目的も違う。基本形を覚えたその上に、皆が違う個性を舞の中に取り入れていく。

これを一人一太極という。



13回目を迎えた恒例の合同練習が、4月23日(土)午後1時から、キュステ(勝浦市芸術文化交流センター)で開催された。

当初は、興津小学校の体育館を予定していたが、他の団体がキュステの予約をキャンセルしたことが判明、野口会長が早速会場を予約した。

今年の参加者は、美心会23名、清心会27名、成増太極拳クラブ5名、タオ研究会1名、山岸先生夫妻



参加者全員で簡化24式太極拳を表演

特別参加の側見先生、永田先生、を含めて総勢60名となった。会は、清心会副会長の山田さんの司会で進行、準備運動後、参加者全員で簡化24式太極拳、楊



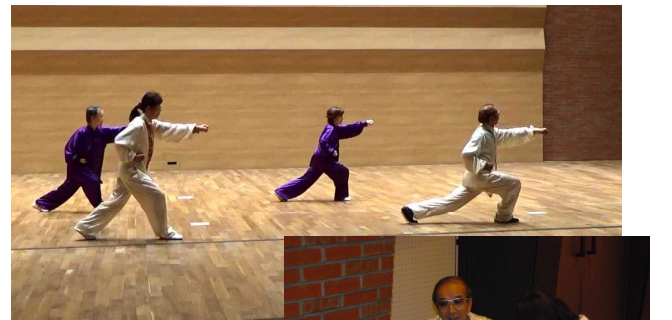
山岸先生夫妻の技の模範演技

式太極拳と進められた。



華麗に技が決まり敵を撃退

昨年好評だった太極拳の技、今年も山岸先生夫妻の模範演技があり、本会からは、足立さんと門屋さんが挑戦した。



プログラムの進行に山岸先生の更衣が間に合わず野口さんが手助けする一幕もあった。



特別参加の側見・永田先生による太極拳「扇」「剣」の表演も参加者の高い関心を集めた。最後は全員で記念撮影をし盛会の内に終了した。

今回の会場確保は、野口会長の並々ならぬ奮闘努力の結晶でもある。予約した時点で会場のフラット化をお願いした所、比較的簡単にOKが出た。念のため確認したら、ステージ下の三列のみ。それでは開催できないと、キュステと協議・交渉を重ねた野口会長。ようやく今回だけの特別処置としてオールフラット化の了承を取付、無事開催の運びとなった。また、控室を確保し見学者の掲示も。お疲れ様でした。